

二〇一八年十二月二六日(水)

臥牛サロン 第六回

能三輪の物語

プロデューズ

田崎甫

(宝生流能楽師)

於 臥牛敷舞台

富士宮市栗倉南町一三二

舞台当主 高橋千洋

(富士宮市中央町在住)



田崎 甫
はじめ

出演者

シテ方宝生流職分
1988年 神奈川県生まれ、
叔父の宝生流能楽師 田崎
隆三に師事。2011年 東京
藝術大学音楽学部邦楽科
卒業、20代宗家宝生和英
の内弟子に入る。同年
「金札」で初シテ。2018
年内弟子を終え独立。富
士宮「羽衣教室」、九段
「幸宝会」を主宰。

シテ方宝生流職分
平成元年生、富山県
富山市出身。20代宗
家宝生和英に師事。
平成23年東京藝術大
学音楽学部邦楽科卒
業。平成24年「清
経」ツレにて初舞台
を踏み、平成29年
「田村」で初シテ。

葛野 りさ
かどの

臥牛サロン

- 1月21日(月) 18:30～ 能「田村」の物語
- 2月18日(月) 18:30～ 能「巻絹」の物語※演目変更しました
- 3月18日(月) 18:30～ 能「百万」の物語

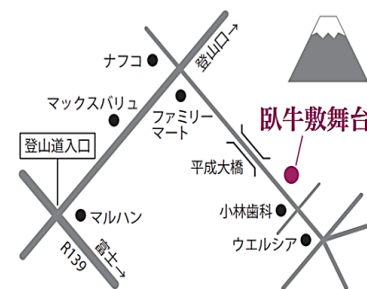
お稽古：臥牛敷舞台にて【個人レッスン：謡・仕舞】

- 1月7日(月)
 - 1月21日(月)
 - 2月4日(月)
- お時間はお問合せ下さい。
※見学歓迎

臥牛敷舞台

富士宮市栗倉南町132
臨時駐車場：裏手に隣接
の空き地

ホームページ：
田崎甫「能への一步」
<http://www.noh-ippo.jp>



田崎甫「羽衣教室」お問合せ先・「臥牛サロン」お申込み

☎ 0545-38-9939 (たざき)

☎ 090-2757-0620 (たざき)

メール：hajime-noh-ippo@outlook.jp →

運営：たのじ合同会社(代表 田崎玄吾)
〒417-0047 静岡県富士市青島町195番地の3
グレース富士603号

hajime-noh-ippo@outlook.jp



四 サロンタイム

三 舞(サシ・クセ・キリ)

「説明・謡・舞」

二 後シテ(三輪明神)の出

「説明・謡・舞」

一 ご挨拶・問答(里女と玄寶)

「三輪」(みわ)

季節・場所 晩秋 三輪山(奈良県桜井市)
シテ 前シテ(里の女)
後シテ(三輪明神)
ワキ 玄寶(げんぴん) 僧都

前シテ・ワキ問答

シテ 如何に上人に申すべき事の候

秋も夜寒になり候へば

御衣をわらわに一重賜り候へ

ワキ 易き間の事此衣を参らせ候べし

シテ あら有難や候

さらば御暇申し候べし

ワキ 暫く さてさて御身はいづくに

住む人ぞ栖を御明し候へ

シテ わらはが栖は三輪の里

山本近き所なりしかも我が庵は

三輪の山本恋しくはとは詠みた

れども

何しに我をば訪ひ

給ふべきさりながら

猶も不審に思しめさば

訪ひ来ませ

地 杉立てる門をしるしにて

尋ね給へと云い捨てて

かき消す如くに失せにけり

サシ・クセ (続き)

地 されども此人 夜は来れども昼見えず

或夜の睦言に御身いかなる故により

かく年月を 送る身の昼をば何と鳥羽

玉の夜ならで 通ひ給はぬはいと不審

多き事なり 唯同じくはとこしなへに

契りをこむ べしとありしかば 彼の人

答へいうよう げにも姿は恥ずかしのも

りて 余所にや知られなん 今より後は

通ふまじ 契りも今宵ばかりなりと

ねんごろに 語れば さすが別れの悲し

さに 帰る所を知らんとて 苧環に針を

つけ 裳裾にこれをとちつけて跡をひか

えて 慕ひ行く

シテ まだ青柳のいとながく

地 結ぶや早玉のおのが力にささがにの

糸繰り返し行く程に此山本の神垣や

杉の下枝にとまりたり こはそもあさま

しや 契りし人の姿か 其糸の三わけ

残りしより 三輪のしるしの過ぎし

世を語るにつけて恥ずかしや

後シテ (三輪明神) の出

シテ 恥ずかしながら我が姿 上人にま

見え申すべし罪を助けてたび給へ

ワキ いや罪科は人間にあり

これは妙なる神道の

シテ 衆生済度の方便なるを

ワキ 暫し迷ひの

シテ 人心や

地 女姿と三輪の神

女姿と三輪の神 禪掛帯引きかえて

唯祝子が着すなる 烏帽子狩衣

裳裾の上に掛け

御影あらたに見え給ふ忝の御事や

サシ・クセ

シテ 中にも此敷島は

人敬つて神力ます

地 五濁の塵に交はり 暫し心は足引

の大和の国に年久しき 五濁の塵に交

はり 暫し心は足引の 大和の国に

年久しき夫婦の者あり 八千代をこめ

し玉椿 変らぬ色を頼みけるに

キリ

シテ 天の岩戸を 引き立てて

地 神は跡なく入り給へば

常闇の世と はやなりぬ

シテ 八百万の神達

岩戸の前にてこれを歎き

神楽を奏して 舞ひ給へば

地 天照大神其時に岩戸を少し開き

給へば 又常闇の雲晴れて 日光

かかやけば人の面しろじろと見ゆる

シテ 面白やと神の御声の

地 妙なる始めの物がたり

思へば伊勢と三輪の神

思へば伊勢と三輪の神

一体分身の御事今更なにと磐座や

其関の戸の夜も明けかく有難き

夢の告

さむるや名残なるらんさむるや

名残なるらん